

## 第 21 回 上川流域協議会 要旨

日時：平成 29 年(2017 年) 7 月 25 日(火) 18：30～20：00

場所：長野県諏訪合同庁舎 5 階 講堂

### 議事内容

- ①上川における植生水路工に関する提言（案）  
（下流ワーキンググループ）
- ②諏訪市四賀ソーラー事業が上川流域に及ぼす影響に関する意見書（案）  
（上流ワーキンググループ）
- ③その他 今後の議題等

### 決定事項

- ・上川における植生水路工に関する提言（案）を承認。  
計画区間は、車橋～新六斗橋間を妥当とする。  
効果的な浄化対策に向けて、ヨシがより多くの栄養塩類の吸収している時期を検証し、その時期にヨシの刈り取りができる方法を検討のこと。  
魚類の産卵に配慮した計画とすること。  
発生材（ヨシ、発生土砂）の有効利用を検討すること。  
治水安全度の向上に向け、早急に整備を進めること。
- ・諏訪市四賀ソーラー事業が上川流域に及ぼす影響に関する意見書（案）について報告。  
有志で後日提出予定。提出先及び意見書に係るメンバーについては後日決定。
- ・今後の会議については、運営委員会を開き、議題、時期について決定した後、事務局より会員へ報告。

---

### 【配布資料】

- ・資料 1 第 21 回上川流域協議会 次第
    - 同上 出席者名簿
    - 同上 構成員名簿
    - 同上 関係行政職員 出席名簿
    - 同上 座席表
    - 同上 上流ワーキンググループ所属一覧表
    - 同上 下流ワーキンググループ所属一覧表
  - ・資料 2 上川流域協議会会則
  - ・資料 3 上川における植生水路工に関する提言（案）
  - ・資料 4 諏訪市四賀ソーラー事業が上川流域に及ぼす影響に関する意見書（案）
-

## 議事要旨

### ①上川における植生水路工に関する提言（案）

イ) 提言（案）について説明（下流ワーキンググループリーダー）

ロ) 質疑応答

【質問 1】 河川内の植生水路の事例は他にあるか。

【回答 1】 実際に流れている河川で行うのは、ここが初めてと推定される。  
霞ヶ浦での実績を計画に反映している。

【質問 2】 カヤネズミ（絶滅危惧種）への配慮はなされているか。

【回答 2】 環境調査を行った結果、車橋から新六斗橋までの間にカヤネズミの営巣が確認されなかったことを踏まえて、当該区間で計画した。

【質問 3】 既に中門川には自然な植生水路ができているが、なぜ新たに植生水路を設置する必要があるか。

【回答 3】 植生水路については約 9000m<sup>2</sup> を計画している。  
植生水路で設置するヨシの生育に最適な水深は 30cm であるが、上川で水深が 30cm より深くなる分について、中門川での実施を考えている。  
中門川は既に植生水路としての機能はあるが、管理用通路がない状況である。

【質問 3】 中門川の川幅は広げるのか。

【回答 3】 広げない。

【質問 4】 中門川を掘り下げるのか。

【回答 4】 約 20cm 掘り下げる。

【質問 5】 土砂堆積することが予想されるが、何年かに 1 回手入れするのか。

【回答 5】 土砂が溜まったところは手を入れる。

【質問 6】 刈ったヨシの有効利用の方法は。

【回答 6】 堆肥化を基本に考えているが、その他の有効利用についても併せて検討していく。

ハ) その他意見等

- ・ホンシュウカヤネズミのことを考えると反対である。
- ・流下能力を高めることが可能である。
- ・水質浄化に加え、治水対策面等の複数の効果が期待できるため、ぜひやって欲しい事業の一つ。
- ・効果について結果検証をしっかりとって欲しい。

## ②諏訪市四賀ソーラー事業が上川流域に及ぼす影響に関する意見書（案）

イ) 提言書（案）ではなく意見書（案）となった理由について説明（事務局）

- ・上川流域協議会会則においては、上川流域協議会構成員に長野県をはじめとする関係行政機関が含まれており、条例に基づく許認可を行う立場として、上川流域協議会として民間事業者の開発行為に対して意見を述べることができない。
- ・上川流域協議会は、県が行う河川の治水・利水に関する提言を行う事を目的として設立しており、民間の開発事業の内容に関する提言を想定していない。

ロ) 意見書（案）について説明（上流ワーキンググループリーダー）

ハ) 質疑応答

特になし

二) その他意見等

- ・環境アセス実施会社が東部漁協の立会いの下、調査を行った結果、100m当り 200 匹近いカジカが確認されたと聞く。
- ・意見が多岐に渡るため、提出先については今後検討。

## ③その他 今後の議題等

- ・水田貯留、河道内調整池といった、様々な流域対策を複合的に組み合わせ考えていく。
- ・宮川と取翻川の問題について、上流、下流一体となって取り組んでいく。
- ・過去の意見書に関する勉強会の開催。
- ・上川流域に住民が関心を持つようにシンポジウム等イベントを開催したらどうか。
- ・植生水路の工事中の課題、完成後のモニタリング結果を検証し節目で報告する。